

広川町現状把握及び 構造の分析

2019 年(令和元年)10 月

広川町

(1) 広川町の位置、地勢

広川町は、福岡県南部八女郡に位置し、東西約 14km、南北 5.4km で、面積は 37.94 k m²です。

東は刑部谷の諸山を境に八女市上陽町と接し、南は長峰丘陵をもって八女市と接し、西は筑後市、北は久留米市と接する耳納山系に囲まれた通称広川谷と呼ばれる広川盆地を形成する地域です。

比較的温暖な気候で、発心山を源とする広川が東から流れ、その流域に細長い盆地性の平野をつくり筑後川に注いでいます。

町の中央部を国道 3 号が南北にはしり、これと並行して東部に県道 82 号（久留米立花線）、西部には国道 209 号がはしっています。さらに、県道 84 号（三潴上陽線）が、町の中央部を東西に横断しており、これらを基幹として、縦横に町道をめぐらせています。

また、町のほぼ中央を九州縦貫自動車道がはしり、町内に広川サービスエリアと平成 10 年度に開通した広川インターチェンジを有しています。

久留米市まで 25 分、西鉄電車に乗り継げば、福岡市内まで約 1 時間、さらに高速道路を利用すれば福岡市までの時間短縮が可能であり、交通の便には恵まれた位置にあります。

(2) 広川町の沿革

広川町は、石器縄文式土器、焼米（八女市岩崎）の出土品が示すように相当古くから人類生活が営まれ、稲作農業が展開してきたことがうかがえます。

また、大和朝廷による国家統一とほぼ時代を同じくする古墳文化も石人山古墳をはじめ、岩戸山古墳、人形原古墳群に見られるように、当地域の開発は順調に進められました。

慶長 5 年の関が原役後は、筑後 33 万石の田中吉政の治世下に入り、1620 年（元和 6 年）からは久留米 21 万石の有馬氏の所領となり、明治維新を迎えました。

昭和 30 年 4 月 1 日、上広川村、中広川村が町村合併により広川町として発足し、さらに同年 12 月 1 日に下広川村の一部が編入して現在の広川町となりました。

合併後、昭和 40 年までは人口の減少が見られ、15,000 人の町となりましたが、その後の経済の変化、交通の利便性の向上などにより、平成 22 年国勢調査では、人口 20,253 人となるまで増加し続けました。

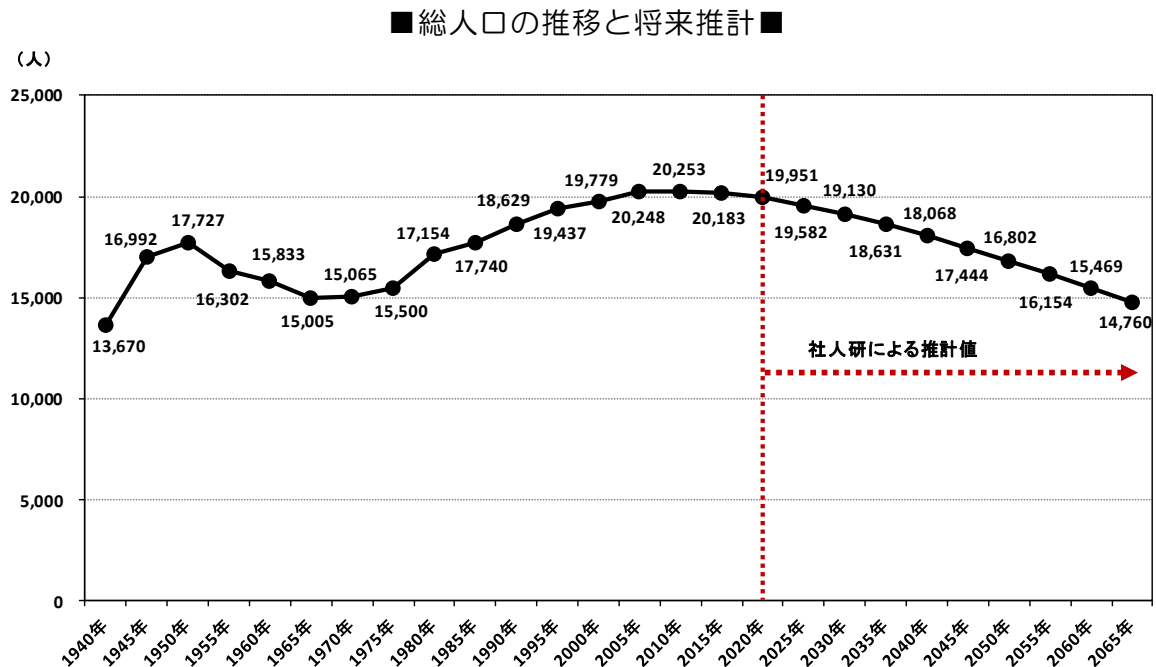
これは、福岡・久留米市の急激な発展の影響を受け、特に久留米都市圏の外延的拡張に伴いベッドタウン的役目を担ってきたことや、広川町中核工業団地、久留米・広川新産業団地における企業立地の進展により、国道 3 号沿いを中心に都市化、宅地化が進んできたことによるものと考えられます。

(3) 時系列による人口動向分析

本町の過去から現在に至る人口推移を把握した上で、自然増減及び社会増減が本町の人口推移に与えた影響を分析します。

① 総人口の推移と将来推計

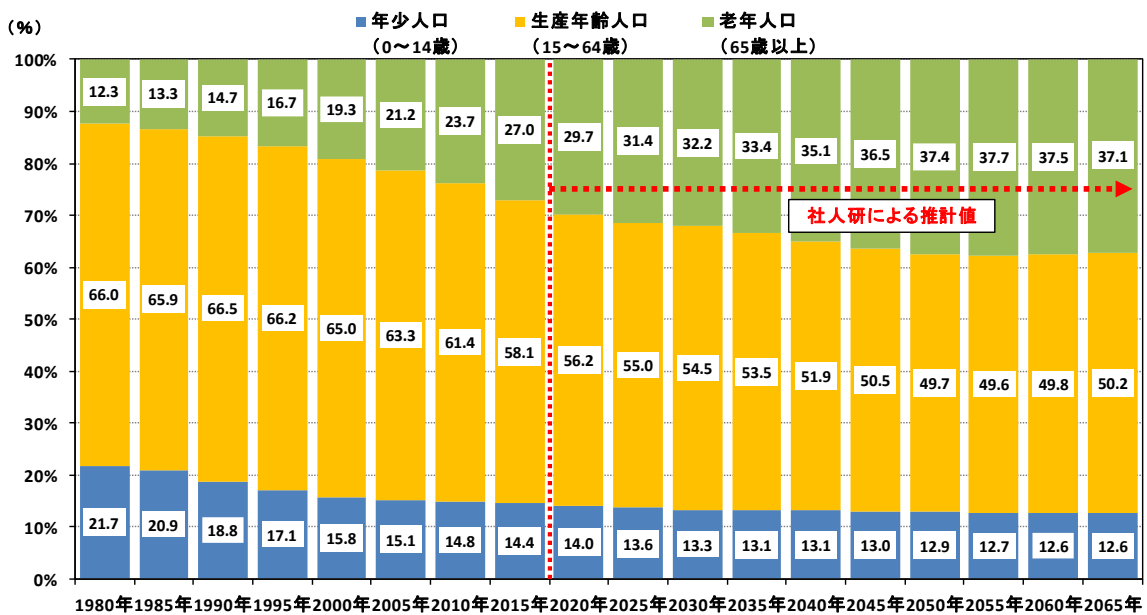
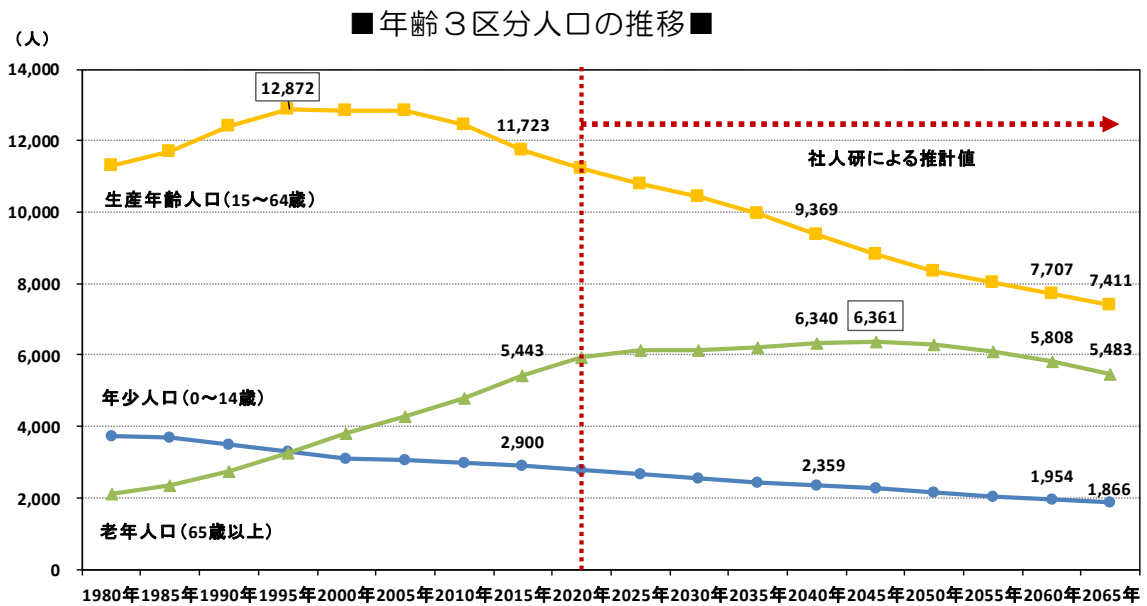
- 本町の総人口は、1965年（昭和40年）から増加を続け2010年（平成22年）の20,253人をピークに減少に転じ、2015年（平成27年）には20,183人となっています。
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、本町では、今後も人口の減少が続き、2060年には15,469人と2015年（平成27年）に対して76.6%に減少すると予想されています。



資料：2015年までは国勢調査実測値、2020年以降は社人研推計値

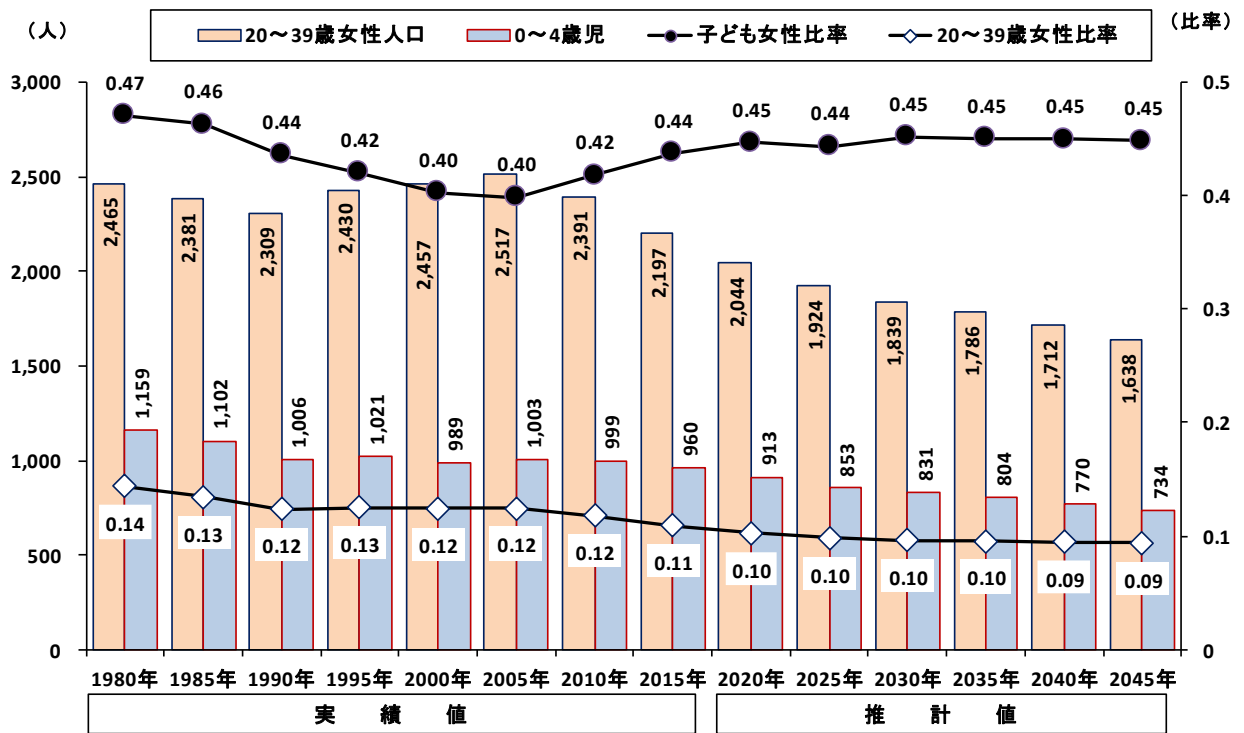
②年齢3区分別人口の推移と将来推計

- ・生産年齢人口は、1995年（平成7年）をピークに減少に転じ、2060年には2015年（平成27）年に対して65.7%に減少すると予想されています。
- ・年少人口も減少傾向にあり、2060年には2015年（平成27）年に対して67.4%に減少すると予想されています。
- ・老年人口は、2045年（令和27年）をピークに減少に転じ、2060年には2015年（平成27）年に対して106.7%に増加すると予想されています。
- ・子ども出生数に関連する女性20～39歳人口は減少傾向が予想される中、0～4歳人口は女性20～39歳人口の減少ほど急激ではないため、0～4歳人口を女性20～39歳人口で割った「子ども女性比率」は0.45前後で推移することが予想されます。



資料：2015年までは国勢調査実測値，2020年以降は社人研推計値

■20～39 歳女性人口、0～4 歳児、子ども女性比率、20～39 歳女性比率の推移■



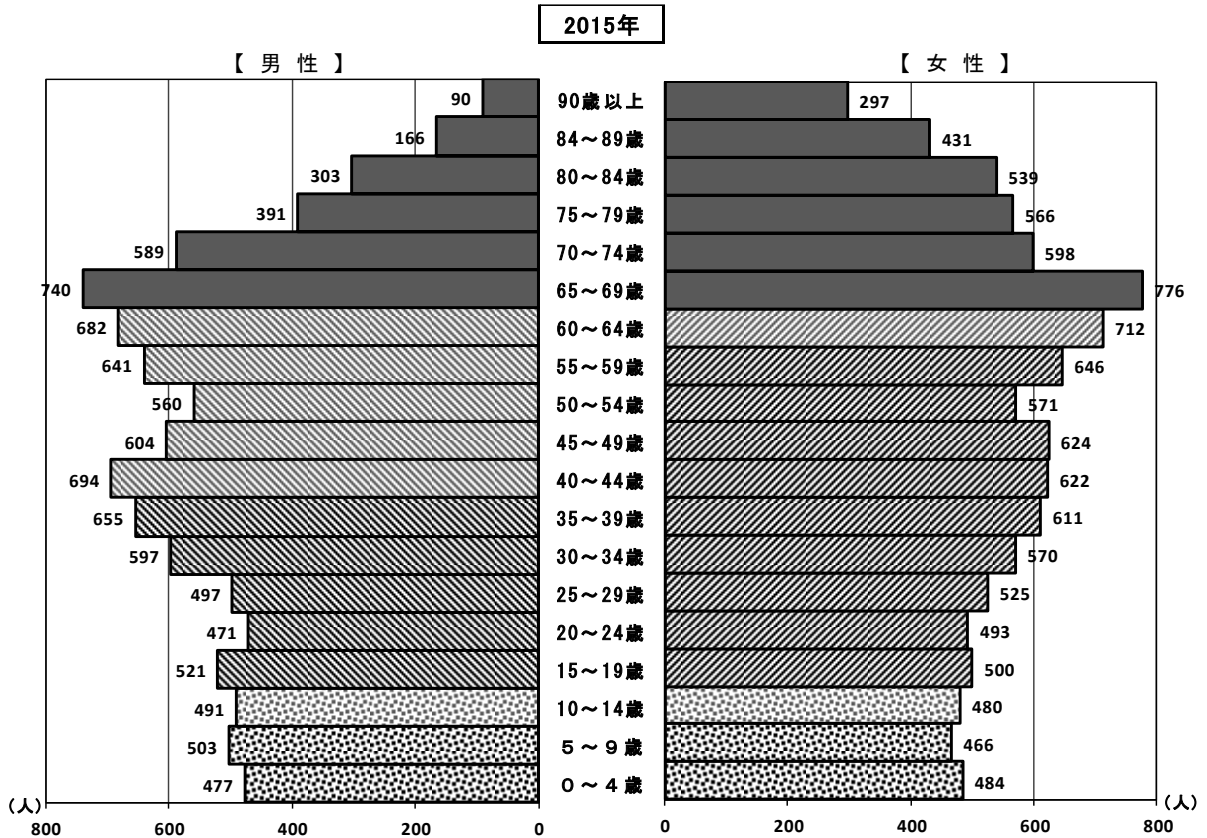
※1) 子ども女性比率=0～4歳児人口÷20～39歳女性人口 ※2) 20～39歳女性人口比率=20～29歳女性人口÷総人口

資料：2015年までは国勢調査実測値、2020年以降は社人研推計値

③ 性別年齢別人口構成

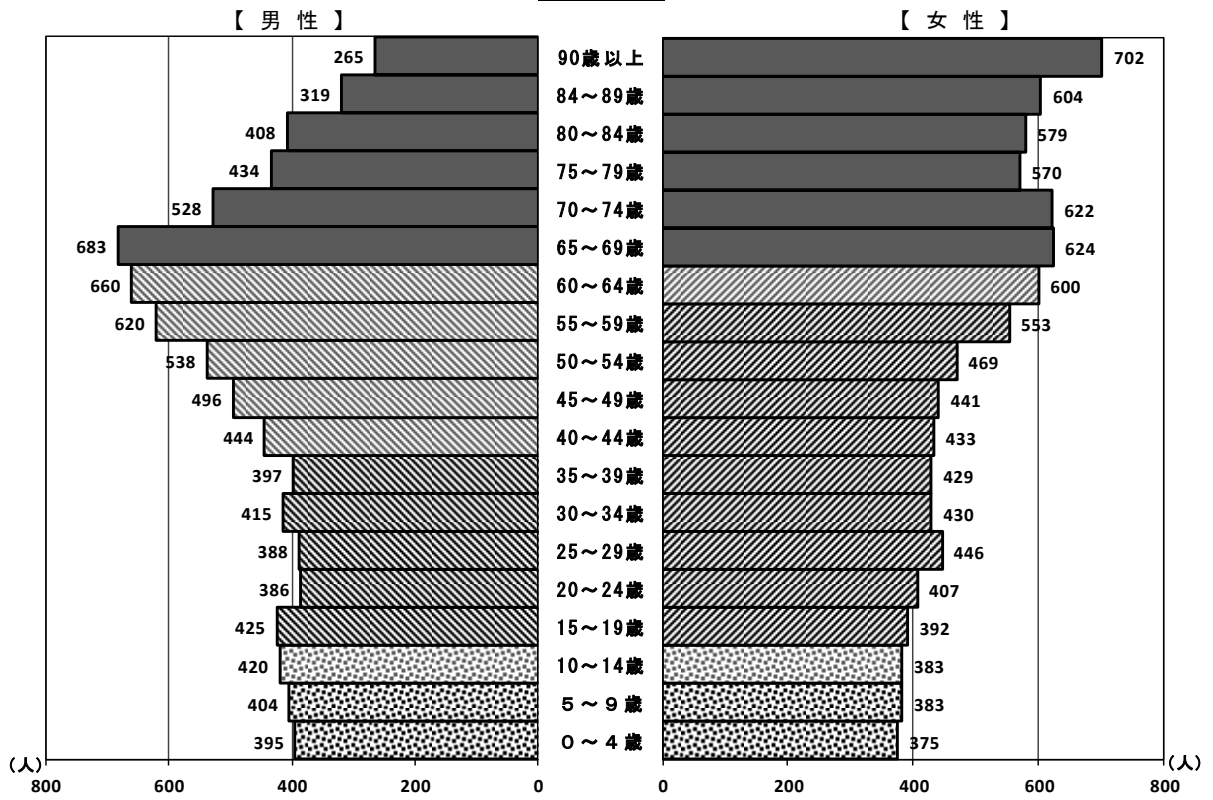
- 本町の年齢別人口構成は、男女とも、生産活動を支え、子育て世代でもある20歳前後から50歳前後までの割合が特に低くなっており、それが地域の人口再生産力を低下させ、人口減少・少子高齢化に影響を与えていると予想されます。
- 男女ともおおむね60歳以上の割合が高くなっています。

■ 性別年齢別人口構成（2015年） ■



資料：「国勢調査（2015年）」総務省

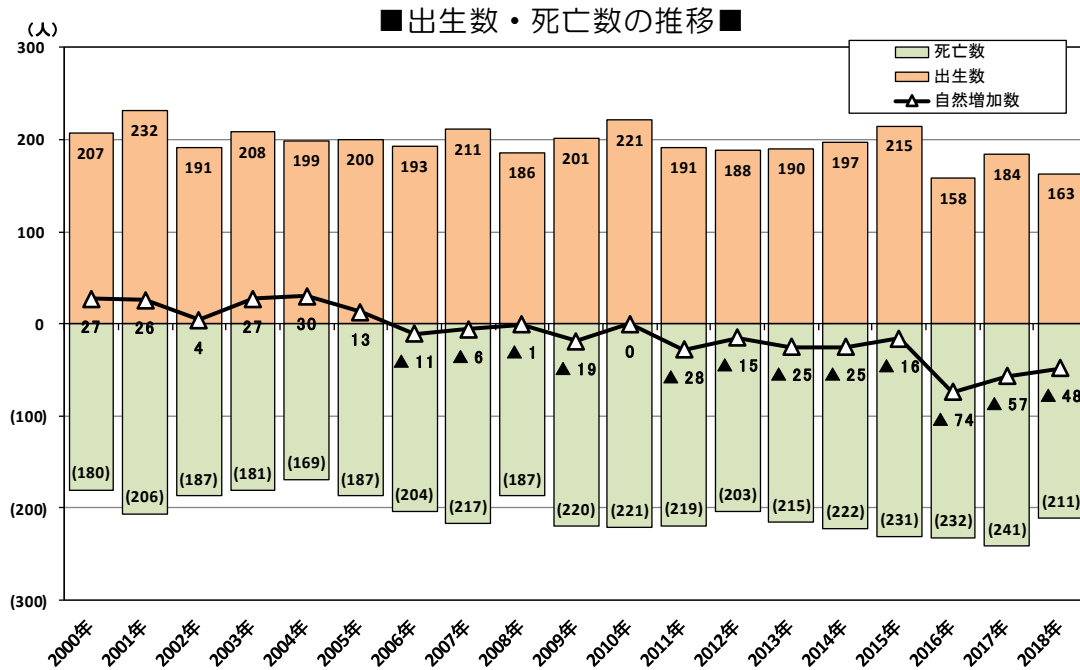
2040年



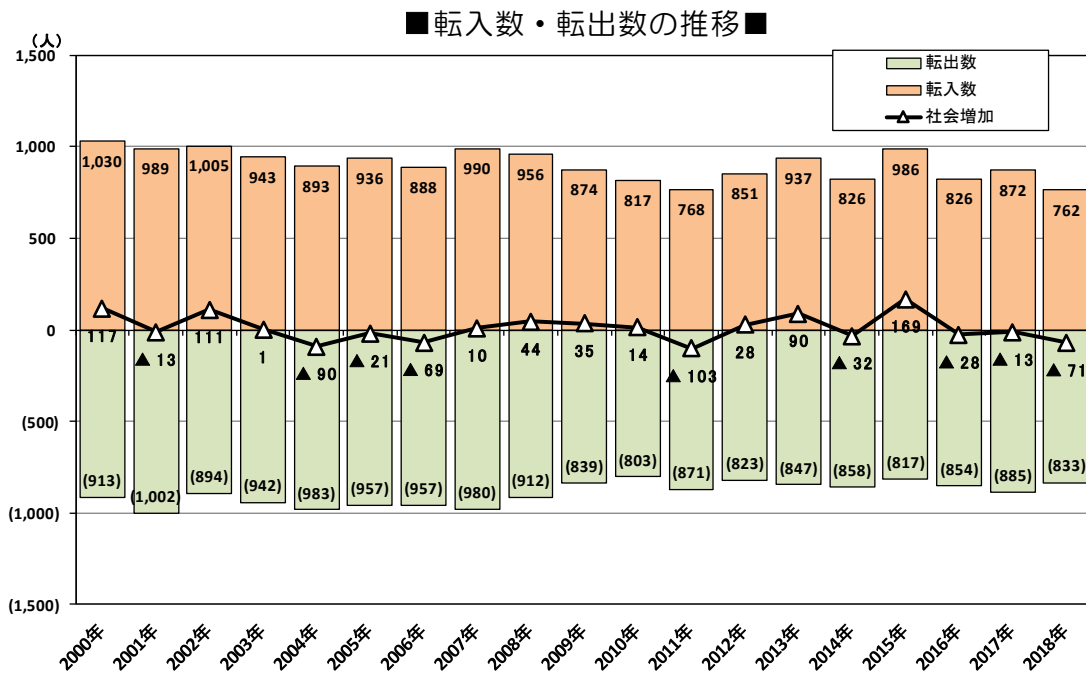
資料：社人研推計

④ 出生・死亡、転入・転出の推移

- 自然増減は、2005年（平成17年）までは自然増で推移していましたが、その後自然減に転じています。減少幅は拡大傾向でしたが、2016年（平成28年）以降は減少幅は縮小しています。
- 社会増減は、増加と減少を繰り返しながら推移していましたが、2016年（平成28年）以降は社会減で推移しています。



資料：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」総務省

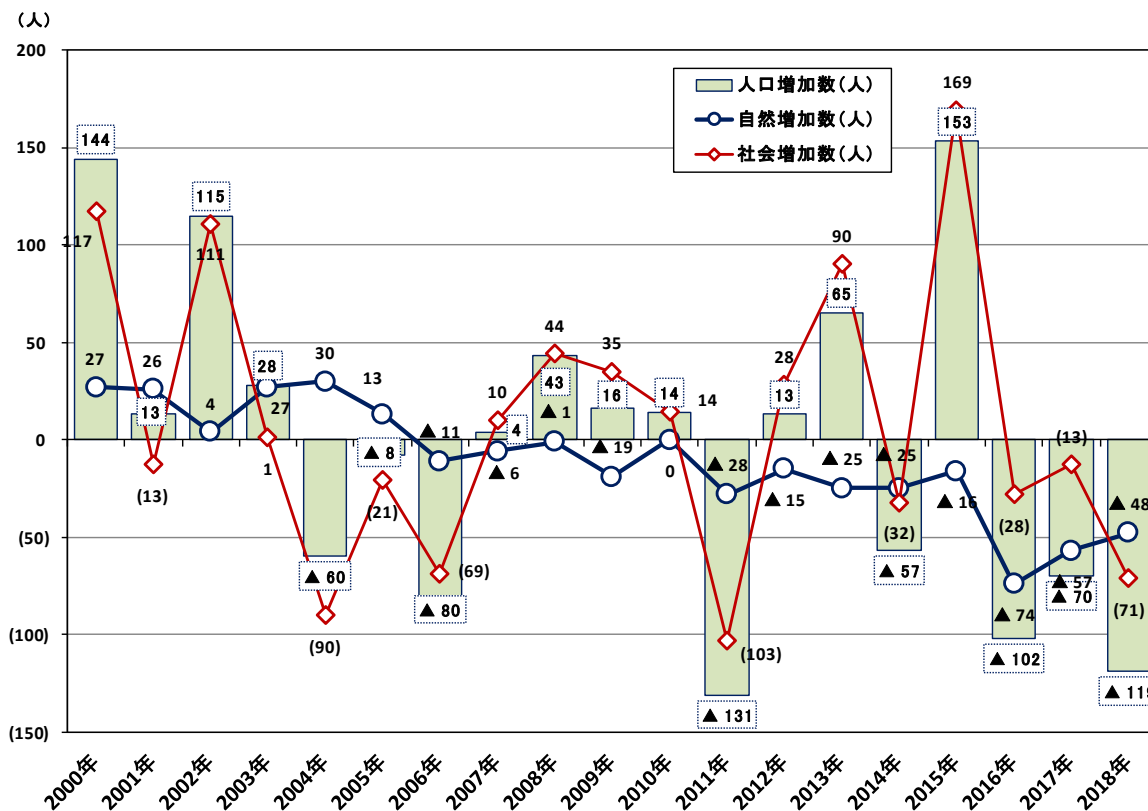


資料：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」総務省

⑤人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

- ・以上の自然増減、社会増減の推移により、人口は増加と減少を繰り返しながら推移していましたが、2016年（平成28年）以降は人口減少で推移しています。

■自然増減・社会増減の変化■

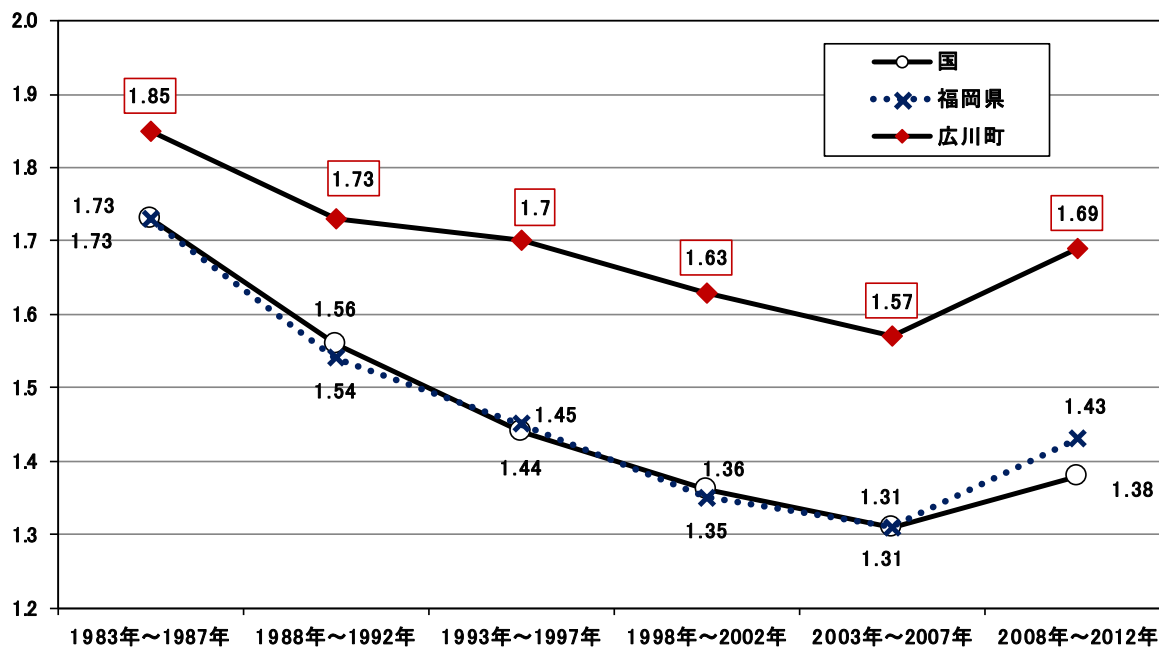


資料：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」総務省

⑥ 出生率の推移

- 本町の出生率は減少し、2003年（平成15年）～2007年（平成19年）を底に増加に転じています。
- 本町の出生率は、国・県よりも高い水準で推移しています。

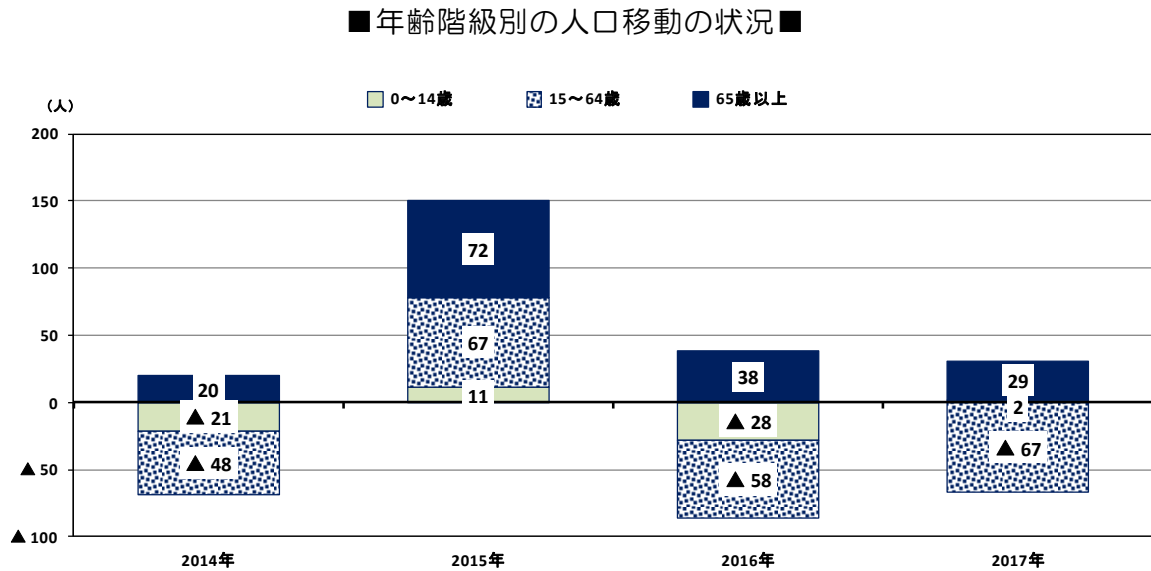
■ 出生率の推移（国、福岡県、広川町） ■



資料：人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）

⑦年齢階級別の人口移動の状況

- 年齢階級別にみると、65歳以上は転入超過が続いていますが、0～14歳と15～64歳は転出超過と転入超過を繰り返しながら推移しています。また、近年は、0～14歳は転入転出が均衡、15～64歳は転出超過となっています。

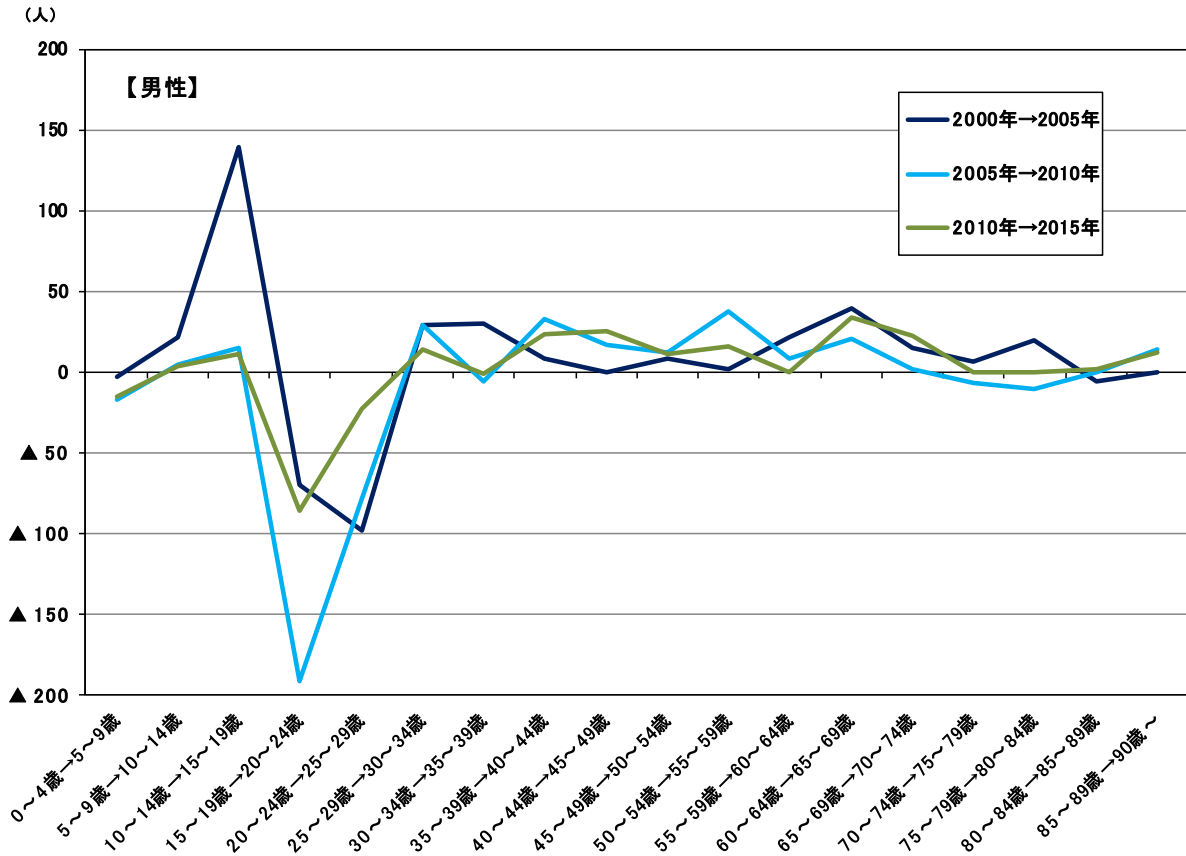


資料：「住民基本台帳人口移動報告」総務省

⑧ 性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況

- ・男性は、進学年代である10歳代で転入超過となっています。また、20歳代から30歳代にかけては転出超過となっており、その世代が希望の就業先を町内で見つけることが難しい状況があるのではないかと推測されます。
- ・女性は、男性と同様な傾向を示していますが、その転入転出超過数は男性に比べて小さくなっています。

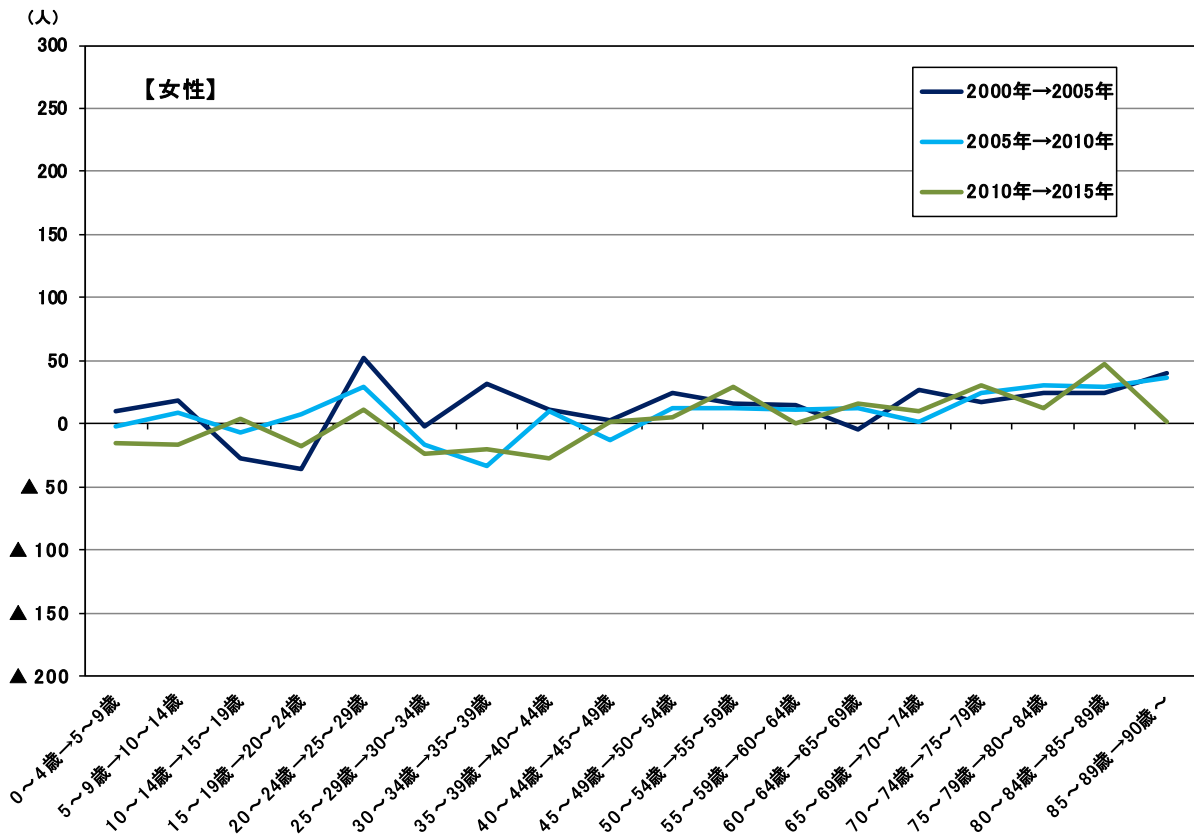
■ 年齢階級別人口移動推移（男性） ■



資料：「国勢調査（各年10月1日）」総務省

※男女5歳階級別の純移動数は、上記「国勢調査」人口と各期間の生残率を用いて推定した値。

■ 年齢階級別人口移動推移（女性） ■



資料：「国勢調査（各年10月1日）」総務省

※男女5歳階級別の純移動数は、上記「国勢調査」人口と各期間の生残率を用いて推定した値。

⑨地域別人口移動の最近の状況

- ・平成24年以降の2年間合計で比較すると、転入出の主な相手先としては、通勤通学先としても上位を占め、同じ生活圏域にある久留米市、八女市、筑後市、福岡市となっています。
- ・久留米市との転入出は、ほぼ均衡していますが、そのほかでは転出超過となっています。
- ・また、東京都へ直接転出する人が平成26年以降増加傾向にあり、東京圏一極集中の影響は広川町でも見られるようになっていきます。

■地域別の人口移動の推移■

主な移動相手地域	平成24+25年 (2012年+2013年)			平成26+27年 (2014年+2015年)			平成28年+29年 (2016年+2017年)		
	転入者数	転出者数	増減	転入者数	転出者数	増減	転入者数	転出者数	増減
全国合計	1,652	1,619	33	1,678	1,577	101	1,509	1,593	△ 84
久留米市	356	378	△ 22	402	390	12	398	389	9
八女市	400	286	114	414	309	105	332	337	△ 5
筑後市	137	174	△ 37	135	151	△ 16	142	158	△ 16
福岡市	88	132	△ 44	107	130	△ 23	83	137	△ 54
東京都	21	27	△ 6	33	55	△ 22	26	51	△ 25
熊本県	67	42	25	54	45	9	55	46	9
佐賀県	62	64	△ 2	67	33	34	63	37	26
長崎県	45	33	12	35	30	5	37	22	15
大分県	33	19	14	22	23	△ 1	22	16	6
大牟田市	30	22	8	16	15	1	14	16	△ 2
柳川市	27	17	10	26	11	15	20	17	3
神奈川県	26	21	5	8	11	△ 3	24	22	2
北九州市	26	25	1	13	20	△ 7	22	27	△ 5
鹿児島県	25	20	5	23	24	△ 1	17	11	6
宮崎県	23	21	2	26	15	11	9	7	2
大阪府	10	29	△ 19	14	16	△ 2	9	13	△ 4
その他	276	309	△ 33	685	689	△ 4	634	676	△ 42

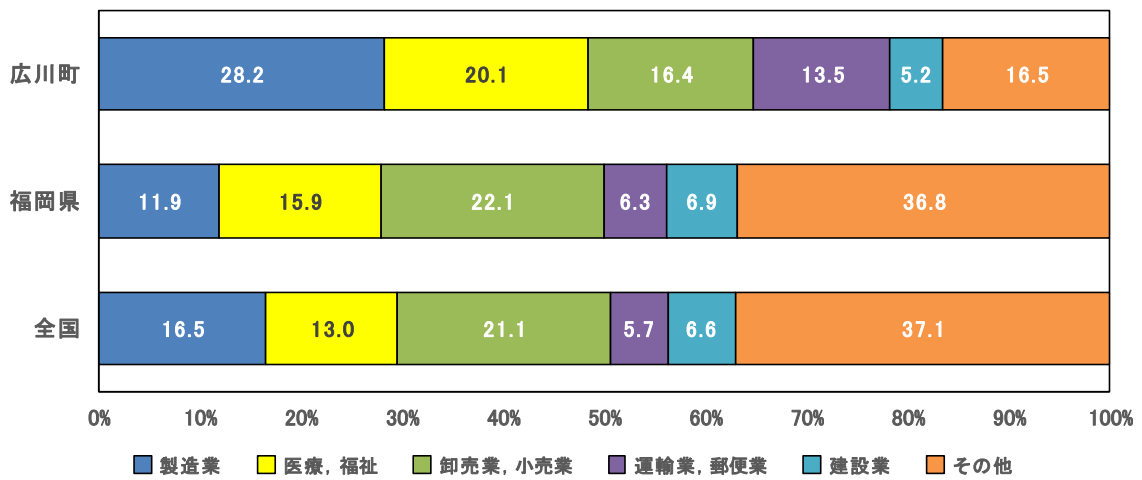
資料：「住民基本台帳人口移動報告」総務省

(4) 雇用及び就労等に関する分析

① 本町の産業構成

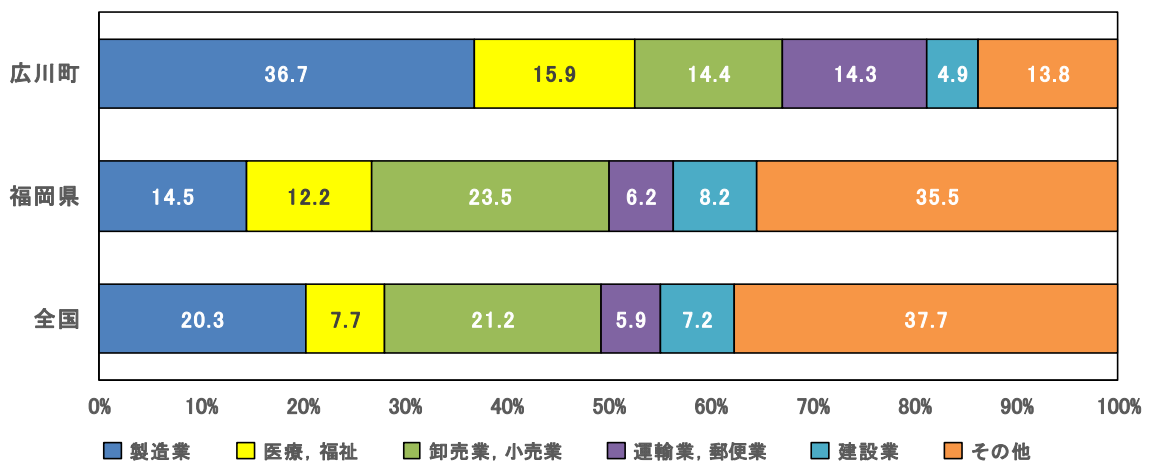
- ・本町の従業者・付加価値の構成比は、全国や県に比べ、製造業、医療・福祉、運輸業、郵便業の割合が高くなっています。
- ・一方、卸・小売業、建設業の従業者・付加価値の構成比は、全国や県よりも低くなっています。

■ 従業者数の産業別構成 ■



資料：「平成 28 年経済センサスー活動調査」経済産業省
 ※従業者は事業従事者

■ 付加価値の産業別構成 ■

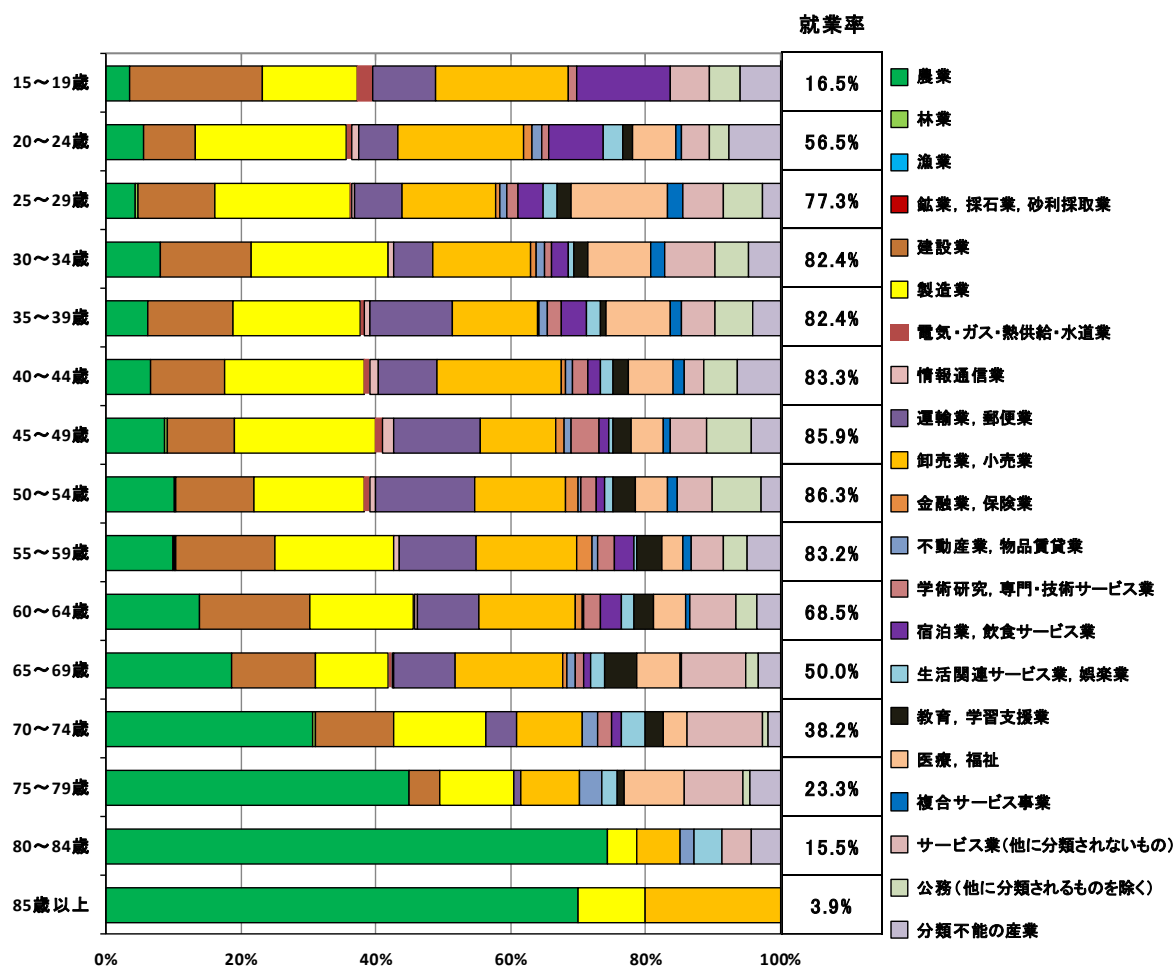


資料：「平成 28 年経済センサスー活動調査」経済産業省

②年齢別就業率と産業構成

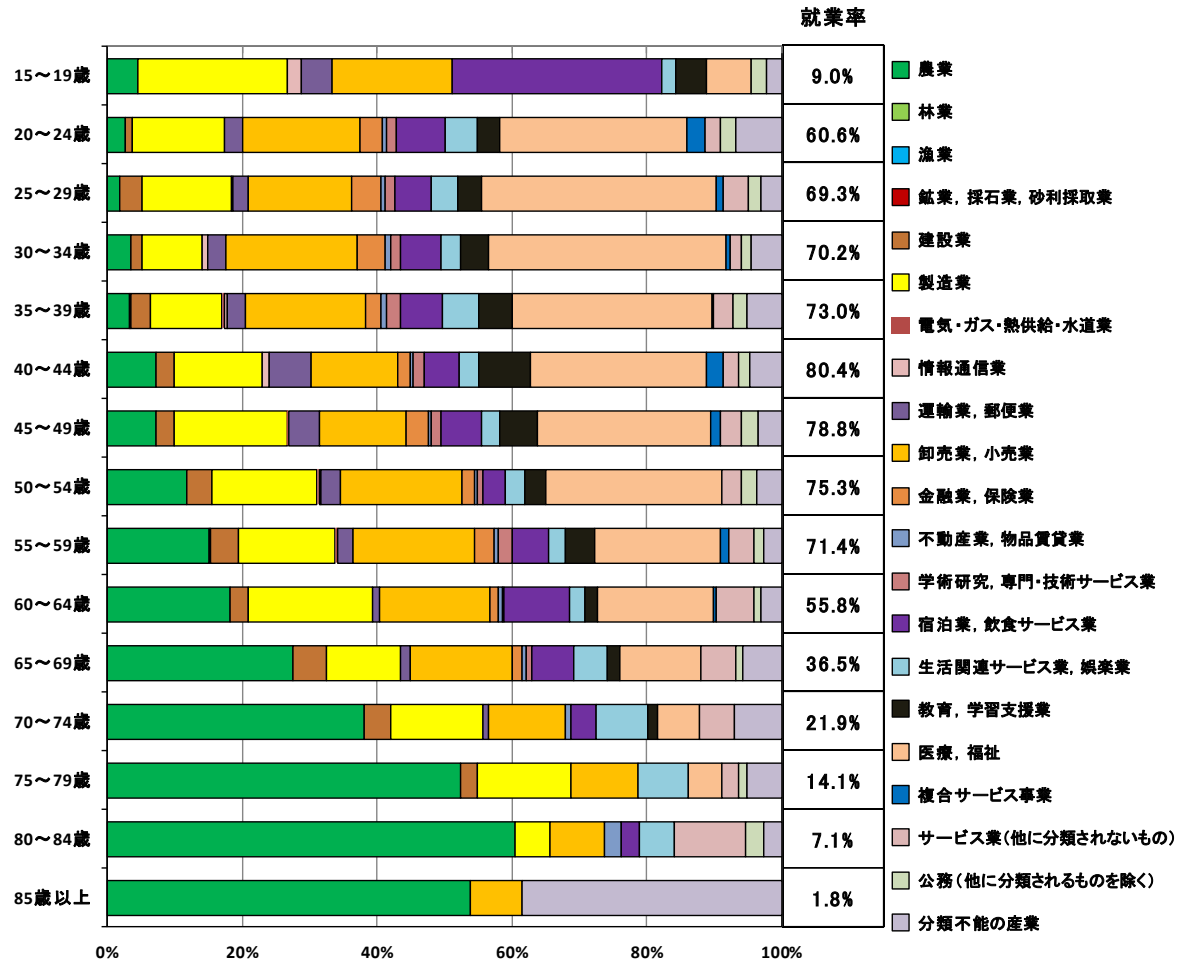
- 男性では製造業、卸売業・小売業、建設業、農業、運輸業・郵便業、女性では医療・福祉、卸売業・小売業、製造業、農業が多い傾向にあります。
- 男性は 60 歳を過ぎたあたりから、女性は 50 歳を過ぎたあたりから、農業の割合が増加する傾向にあります。
- 女性は全体的に男性より人口に占める就業人口の割合が少なく、25 歳を過ぎたあたりから男性との幅が開いていきます。結婚や出産を機に仕事を辞めるケースもあるものと考えられます。

■年齢別就業率と産業構成（2015 年（平成 27 年）・男性）■



資料：「国勢調査（2015 年（平成 27 年）10 月 1 日）」総務省
 ※就業率は、年齢 5 歳階級別の人口に対する産業別人口の割合

■年齢別就業率と産業構成（2015年（平成27年）・女性）■

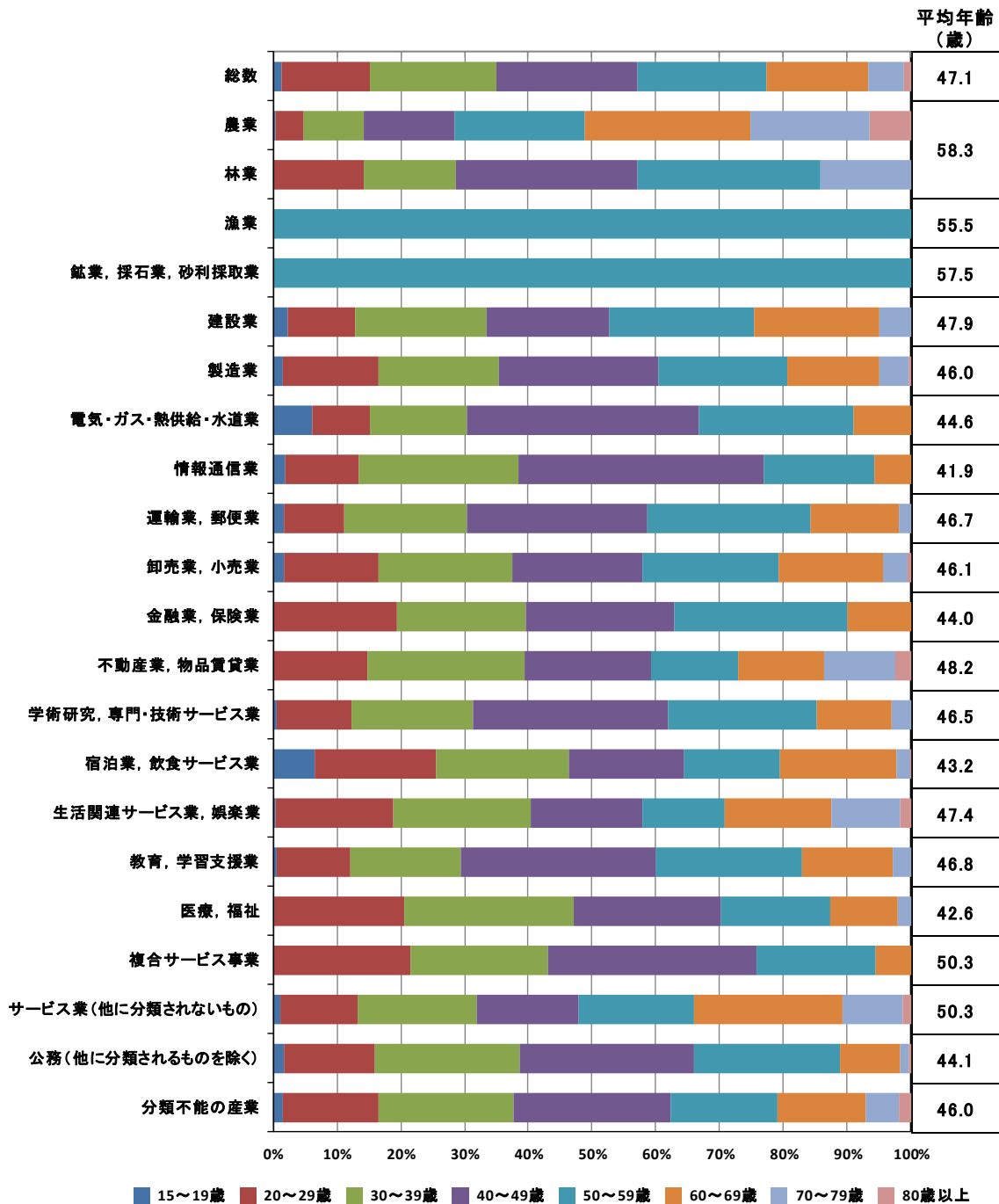


資料：「国勢調査（2015年（平成27年）10月1日）」総務省
 ※就業率は、年齢5歳階級別の人口に対する産業別人口の割合

③産業別就業人口の年齢構成

- 農業就業者の半分以上が 60 歳以上となっており、特に農林業の平均年齢は約 58.3 歳となっています。本町の基幹産業の一つである農業では、後継者不足などにより高齢化が進んでいるものと思われます。

■産業別就業人口の年齢構成（2015 年（平成 27 年））■



資料：「国勢調査（2015 年（平成 27 年）10 月 1 日）」総務省

④通勤・通学流動

- 2015年（平成27年）の本町から他市町へ通勤・通学する人は5,913人であり、本町に通勤・通学してくる人5,182人に比べ731人流出しています。
- 通勤・通学先は久留米市、八女市、筑後市、福岡市の順に多く、反対に本町に通勤・通学してくる人は久留米市、八女市、筑後市、みやま市、柳川市の順になっています。
- 就業者についてみると、久留米市、八女市、福岡市は本町からこれら市町へ通勤する人が多くなっています。一方、筑後市、みやま市、柳川市はこれら市町から本町へ通勤する人が多くなっており、雇用の場がこれら市町に比べ本町が相対的に多いことが分かります。
- 通学者についてみると、久留米市、八女市、筑後市、福岡市、柳川市は、本町からこれら市町へ通学する人が多くなっており、教育の場がこれら市町は本町に比べ相対的に多いことが分かります。
- 久留米市、八女市、筑後市との通勤・通学流動が目立って多く、一体的な生活圏を形成しているものと思われます。

■通勤・通学流動■

(単位:人)				(単位:人)			
	総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者		総数	15歳以上 就業者	15歳以上 通学者
当地に常住する就業者・通学者	10,513	9,470	1,043	当地で従業・通学する者	9,825	9,372	453
自市町村で従業・通学	4,362	4,119	243	自市町村に常住	4,362	4,119	243
他市区町村で従業・通学	5,913	5,135	778	他市区町村に常住	5,182	4,998	184
県内	5,503	4,768	735	県内	4,961	4,810	151
40203 久留米市	2,078	1,869	209	40203 久留米市	1,902	1,824	78
40210 八女市	1,873	1,602	271	40210 八女市	1,442	1,421	21
40211 筑後市	706	606	100	40211 筑後市	880	868	12
40130 福岡市	340	252	88	40229 みやま市	168	163	5
40207 柳川市	81	57	24	40207 柳川市	134	131	3
40202 大牟田市	62	54	8	40522 大木町	87	85	2
40229 みやま市	49	49	-	40202 大牟田市	63	54	9
40212 大川市	47	38	9	40212 大川市	55	52	3
40216 小郡市	46	43	3	40216 小郡市	55	51	4
40217 筑紫野市	40	37	3	40130 福岡市	40	40	-
40228 朝倉市	38	38	-	40217 筑紫野市	24	22	2
40522 大木町	36	36	-	40503 大刀洗町	19	19	-
40221 太宰府市	18	7	11	40228 朝倉市	17	16	1
40219 大野城市	12	11	1	40225 うきは市	16	12	4
40225 うきは市	12	12	-	40447 筑前町	11	9	2
40100 北九州市	10	6	4	その他	48	43	5
その他	55	51	4	他県	221	188	33
他県	367	328	39				

資料：「国勢調査（2015年（平成27年）10月1日）」総務省